

新しい「歌い継ぐカタチ」混声三部合唱組曲「阿賀野川」20周年プロジェクト合唱×ROCK「阿賀野川」

Swallowtail*Queenbee and Minami (スワローテイルクィンビーアンドミナミ)

阿賀 ROCK

卒業生
の活動

合唱×ROCK「阿賀野川」とは

合唱組曲「阿賀野川」はミナガワトオルのふるさと新潟県東蒲原郡阿賀町(旧三川村)で20年以上の間、歌い継がれている合唱曲。昭和42年、村を襲った羽越水害をテーマとし、美しい情景描写や村人のたくまじい姿がドキュメンタリータッチで描かれた、壮大な組曲となっている。(作詩:山本和夫、作曲:岩河三郎)
昨年「阿賀野川」誕生20周年という節目を迎えるにあたり、羽越水害の記憶を風化させないためにも、この合唱曲をリメイクするプロジェクトが動き出した。中学時代に「阿賀野川」を歌った経験を持つミナガワトオルが中心となり、自身のバンドに演歌歌手を迎え入れ、郷土愛をむき出しにして制作は進められた。未だかつて誰も聴いたことなかった、合唱曲のROCKサウンドアレンジ。生まれ変わった「阿賀野川」には多くの可能性が秘められている。



↑長岡市「音楽食堂」でのライブ

Q: 合唱×ROCK「阿賀野川」について

ミナガワトオル(以下M):一昨年、地元で歌われている「阿賀野川」を歌い継ぐ会」の新聞記事を見て、改めて「もう19年目なんだ」と実感し、20周年に向けて、節目を迎えた「阿賀野川」で何かカタチに残るものにできないかなと思いました。中学時代歌っている人の中には嫌々歌っている人もいたかもしれないけれど、ボクは大学に入学した後もCDをアパートに持って行って聴いたりするぐらい「阿賀野川」が好きで、阿賀町(旧三川村)を盛り上げるためにも、新しい「歌い継ぐカタチ」をやってみたかった。もともと、バンドを組んでいたんで、そのバンドメンバーと一緒につくれないかなと思ひ、まず、アレンジを全部ポク一人で考えて、できあがったものを皆に聴いてもらいました。

Sae(以下S):いいから聴けみたいな(笑)
M:合唱をROCKでやるのが新しい試みで、いままでになかったと思うんですよね。それが2010年の12月くらい。そして、今年の7月11日にCDが発売されます。メンバーもやりがいを感じたり、おもしろそうだなと思ってくれたみたいだし、自分達の表現のひとつとして、ボクがキッカケをつくって、取り組んでくれればなあ。まあ、もうやってももうつもりでしたけど(笑)
M:ボクがやろうと思った時に一番聴いてもらいたかったのは地元中学の卒業生たちなんですよ。合唱×ROCK「阿賀野川」のホームページを立ち上げた時に、卒業生や学校の先生、羽越水害に遭われた方、合唱団の方、いろんな方にインタビューしまし

た。卒業してから会ってなかった人にすごい久しぶりに会いましたね。そういう再会とかが、うれしかったです。あと、こういうことをしないと話を聞けないような方とお話ができなかった。例えば元校長さんであったり、中学校の校長先生、教頭先生、教育委員会の方、作詩の山本先生は亡くなっているんですけど、福井県までお墓参りに行って、先生を慕っている方から話を聞いたり、作曲の岩河先生には手紙を出して、好意的な返事をいただいたり、たくさんのお会いがありました。今回の活動も賛成の声だけではありません。それも全部受け入れる覚悟で、アレンジを行いましたし、それだけしっかりとしたものを作りたいと思っていました。**S:**もともと良い曲だから本当に良

いアルバムに仕上がったよね。**M:**もともとは合唱曲ですが、合唱とは別の物として聴いてもらいたいです。合唱曲と比べると、いろんな「阿賀野川」があって良いんじゃないかと思っていますよ。本当に良い曲なのに埋もれてしまっているというのが残念で、むかし村のために作った曲が、こんな良いものがあるのに、もったいないという気持ちがあります。この歌は羽越水害から立ち上がった歌なんです。東日本大震災で被災された方への応援歌としても聴いていただきたいです。また、この歌は阿賀町の文化や歴史も曲を通じて、学んでもらえます。羽越水害を知らない若い世代にも広くJ-POPのようなカタチで聴いてもらえるとうれしいです。



Swallowtail*Queenbee and Minami

沖縄の伝統楽器「三線」を取り入れた女性ボーカルによるロックバンド、Swallowtail*Queenbee。斬新なスタイルと哀愁あるその歌声は、県内唯一無二である。合唱×ROCK「阿賀野川」を制作するため、新潟出身の演歌歌手「葉月みなみ」との異色コラボレーションが実現した。



↓新潟のライブハウス「クラブリバース」でのライブ



咲花温泉 翠玉の湯 佐取館「旬の山菜を楽しむ集い2012」↑リハーサル中の様子 音響のチェックにも余念がありません

Q: スワローテイルクィンビーを結成したきっかけは?

S:私とミナガワくんは大学祭に出演するために、前身バンドを結成したのがキッカケでした。ミナガワくんは総合音楽会※に所属していたのですが、私は総合音楽会には所属していませんでした。バスケ部でしたから。**M:**友達と一緒にいったカラオケでSaeの歌を聴いて、うまいなって声をかけて、本当は大学祭だけで終わるつもりだったんですけど新潟でのライブが決まったりして卒業しても続けて今に至っています。皆それぞれ仕事をしながら、住んでいる場所も休みもバラバラなので練習の調整も大変ですね。**S:**活動が思うようにすすまなかったり、ライブも皆の日程が合わなくてなかなかできないとか、良い調子で行けないバンド

頃に長岡の大手通り・すずらん通りで定期的にフリーマーケットを行っていて、そこでイラストをステッカーにしたグッズを販売してました。周りは古着とか雑貨の販売だったけど、イラストとかをしている人はなくて、中高生、特に一部の中学生の女の子を中心に、自分で言うのもあれですけど、ブームになりましたよ(笑)大学の授業以外でも、自分の描いたイラストを通して、社会勉強できましたね。**S:**ミナガワくん楽しそうだね。私何してたんですかね。部活が良い思い出ですね。なんでバスケ部に入ったかという、先輩達がやんちゃで、ここに入ったら楽しそう!と思って入部して、実際マネージャー業好きじゃな

いけど、マネージャーやってました。それで課題を皆で徹夜してやったりとか。**S:**授業の思い出では、実際に現場に足を運んで設計しなければいけないっていうのを授業で聞いて、それは今でも心に残っていますね。**M:**あと大学の校舎おしゃれだったよね。**S:**大学にいただけでおしゃれみたいな。ランドスケープもおしゃれだったよね。**M:**アトリエ棟の屋根が曲線だったとか。何につけても、おしゃれでかっこ良かった。今でもたまにNIDに行くとか、やっぱりおしゃれだな~と思いますね。**S:**環境良かったよね。知らないうちにデザインされた校舎に影

響を受けていたかもしれない。私たちが通っていた頃より、今行くと当時より周りの木々が成長していて、印象が違うんですよね。あと、いろんな方面からものづくり、デザインをしたいって学生が来るから、よりそういったのが刺激になってたし、やりたいことは全部やれる環境だった気がします。



2012年7月11日(水)
CD「阿賀野川」発売!

収録曲:全5曲

1. 阿賀の里
2. ふるさとの将軍杉
3. 羽越大災害
4. 悲歌
5. 光にむかって

<http://www.agarock.com/>



Sae (大森さえ子)
新潟県長岡市出身
2001年環境デザイン学科
空間デザインコース(現:建築・環境デザイン学科)卒業



ミナガワトオル (皆川徹)
新潟県東蒲原郡阿賀町出身
2001年産業デザイン学科
視覚デザインコース(現:視覚デザイン学科)卒業

※総合音楽会:バンド活動を中心に、大学祭イベントなどに参加するNIDのサークル